

# 危険な感染症 劇症型溶連菌 急拡大!

致死率が3割に上るともいわれる危険な感染症が、いま、過去最多のペースで急拡大している。「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」、いわゆる『劇症型溶連菌』。感染すると手足の壊死や多臓器不全を引き起こし、ショック症状から死に至ることもあり、“人食いバクテリア”とも呼ばれている。命を守るためには…。

## ◆新たな変異株も!

劇症型溶連菌に感染した国内の患者数が今年に入ってから5月初旬までで801人、去年の同じ時期の2・8倍となっている。去年1年間の患者数は現在の方法で統計を取り始めてから最も多い941人だったが、それを上回るペースとなっている。患者が増えている原因は詳しくは分かっていないが、新型コロナウイルスへの対策が緩和されて以降、同じ種類の細菌による咽頭炎の患者数が増えた影響などが指摘されている。

感染力の強い新たな変異株も確認されている。ヨーロッパやアメリカで急速に拡大中なのが、新たな変異株「M1UK」という株。毒性も感染力も強く、毒素が従来の9倍。この変異種は、すでに日本に上陸していて昨年国内で確認され、今年も感染者の4割以上

上に拡大していて、置き換わりが進行している。

国や自治体も注意を呼びかけているこの感染症。命を守るためには何が必要なのか?

## ◆注意すべき症状は

一般的な溶連菌は人の喉などに保菌(体内に保有しながらも発症していない状態)されて感染しても無症状のことが多い。ほとんどは発熱、咽頭炎、皮膚の発疹などにとどまり、子どもがかかるイメーヂを持つ人も多い。この溶連菌が突如変異して急速に増殖するのが、“人食いバクテリア”と呼ばれる『劇症型溶連菌』。通常は細菌が存在しない筋肉や血液、肺などに溶連菌が入り込むと、ごくまれに「劇症型」の症状を引き起こす。かかるのは30歳以上がほとんどで、急激に症状が悪化し、発病後、数十時間で死に至ることも少なくない。

朝、足の先端の少しの腫れに気づくと、昼には膝まで腫れが進行。夜になると腫れが紫から黒になり、その後、壊死することもある。そのため、早期に治療を開始することが重要になってくるが、初期症状は医師でも見分けがつけられないことも。

### 初期症状

- ・ 咽頭痛
- ・ 発熱
- ・ 消化管症状(食欲不振、吐き気、嘔吐、下痢)
- ・ 全身倦怠感
- ・ 低血圧(敗血症症状)
- ・ 筋痛

ただし、明らかな症状がない場合もある。

### 後発症状

- ・ 局所的な腫れや発赤と痛み(軟部組織病変)
- ・ 循環不全
- ・ 呼吸不全
- ・ 多臓器不全(肝機能や腎機能の異常)
- ・ ショック症状